

三島神社



祭神は、大山祇神、上津比咩神、下津比咩神

養老4年（720年）、宇摩大領の越智玉澄が大三島の大山祇神社より大山祇神をこの地に勧請したのが三島神社の始まりである。三島の地名は、三島神社に由来すると言われている。

現在の本殿は、明治35年（1902年）の造営である。それ以前の本殿は、撰社・諸山祇神社の社殿となっている。旧本殿は、延徳2年（1490年）に建立されたもので、桧皮葺の入母屋造りの建物である。市の有形文化財に指定されている。

また、文政4年（1821年）に建てられた随神門も、市の有形文化財に指定されている。

そのほか、境内にある磐座や福島正則奉獻と伝えられる石灯籠も市指定の文化財となっている。また、鯛寄石と呼ばれる龍宝石もある。